

日本気象学会2001年度春季大会の報告

日本気象学会2001年度春季大会は、東京大学本郷キャンパス（東京都文京区）を会場として2001年5月8日（火）～10日（木）に行われた。参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は880名（一般会員569名、学生会員179名、非会員132名）であった。

2日目午後には、東京大学安田講堂において総会が開かれ、近藤 豊会員と露木 義会員に日本気象学会賞が、近藤純正会員と武田喬男会員に藤原賞が授与された。総会終了後に受賞記念講演が行われた。引き続き、「21世紀の気象学—将来展望」と題して大会シンポジウムが行われた。

今回はポスター及び口頭発表による一般講演と特定

のテーマに基づいてコンピーナーが編成する6つの専門分科会とが行われた。一般講演の発表申込み件数は335件（内訳はポスターが244件、口頭発表が91件）、分科会は97件で計432件となり、前回2000年度秋季大会に記録した414件を更新し過去最高の件数となった。

会期中およびその前日には、個別のテーマによる研究会が7件開かれた。

最後に、今大会事務局として大会準備・運営にご尽力頂いた東京大学気候システム研究センターの皆様に深く感謝の意を表します。

2001年6月 講演企画委員会

編集委員会だより

著者名のローマ字表記の変更について

最近、日本人の氏名のローマ字表記の姓名の順について、公の場でも様々な議論が行われています。これまで、「天気」に掲載する著者名のローマ字表記の順序は、原則として名・姓の順に統一して参りましたが、近頃著者の方から、できれば姓・名の順で掲載してほしいとの希望が編集委員会に寄せられました。編集委員会で検討しました結果、ローマ字表記は英文で文章を書くときのペンネームのようなものであり、個人ごとに生涯一貫して使う性質のものであると考えられますので、著者の希望を尊重すべきであるとの結論に達し、常任理事会の承認も得て、2001年8月号から著者

の希望通りの順で姓名のローマ字表記を掲載することにいたしました。但し、混乱を避けるため、姓はすべての文字を大文字で印刷することとします。例えば、天気晴男さんは、著者の希望により Haruo TENKI あるいは TENKI Haruo のどちらかでの印刷を可とします。これに伴い、会員の皆様が「天気」に投稿される際には、すべての著者について印刷を希望されるローマ字表記を原稿上に正確に記載下さるようお願いいたします。なお、記載がない場合は、勝手ながら従来どおり、名・姓の順で印刷させていただくことをご了承ください。